

アニメ小僧だった。というより、アニメソングが好きだった。今もカラオケはアニソンばかりだ。子どものころの主題曲はたいいてい歌える。

中でも宇野誠一郎さんの作品が

窓のそとは、森

⑦未来の郵便局

慶應義塾大学大学院
メディアデザイン研究科教授

中村 伊知哉



いい。W3、ドカチン、ふしぎなメルモ、さるとびエッチちゃん。いま聴いても、豊かで、深い名曲ばかり。

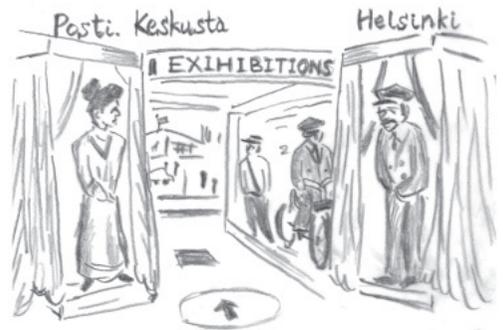
取り分け、ムーミンの主題歌が好きだった。毎週、優しい間奏を

聴くのが待ち遠しかった。楽しく遊んだ日曜日。でももう晩。ああ、また明日から学校だ。沈みがちな心に沁みる響き。アニメに一流のクリエイターがたつぷりと愛情を注ぐ、日本らしい曲だと思う。

宇野誠一郎作品集CDを聴いていて、なつかしさが胸にあふれた。でも、ムーミンは日本人ではないよな。フィンランド生まれだという。ふうん。フィンランドか。

思い立って、行ってみた。フィンランド。異国に降り立つと、まず郵便局を訪れる。クセだ。首都ヘルシンキの駅前にある中央郵便局では、ムーミン切手が売られていた。新しい技術を使ったディスプレイがあり、ムーミン切手のCMが流れていた。なつかしいデザインの向こうに未来を感じた。

その横には、郵便博物館。入口の左右に等身大のディスプレイ。クラシックな装いの婦人と紳士がこちらを向いて挨拶したり手招きしたりしている。奥の大型画面では、十九世紀の郵便局員の衣装を着けた男性が博物館の案内情報を



提示する。これも未来となつかしさの結合だ。

そこで思い出した。以前、私が関わるNPOで「未来の郵便局」という子どものワークショップを開いた。子どもたちが未来の郵便局を空想してくれた。事前に私たち大人が想定していたのは、遊園地っぽい楽しい局。だが、子どもたちの意見は、はるかに超えていた。

まず「呼べば来る郵便局とロボット配達人」。そうか、ケータイ世代は、行かないで、来させるんだ。「ポスト同士がネットワークでつながれている」。ふむ、ポスト

トたちが勝手に話し合って、サービスを向上させてくれるんだな。未来だ。

「空気をキレイにする郵便局」「言葉をキレイにする郵便局」。うむ。なんだろうそれは。地域の環境をクリーンにする。文化を美しくする。もはや郵便局でもない。だけど、今の局よりもうんと公共的な働きを求めているということか。郵便局が果たす足元の役割を見直せ、と言うのか。

ムーミンを観ていたころの私が「未来の郵便局」ってお題を頂いたら、何と答えたらだろう。月曜日、学校の代わりに行って遊べる郵便局。かな。

プロフィール 一九八四年郵政省入省。橋本行革で省庁再編に携わったのを最後に退官し渡米。一九九八年MITメディアアラボ客員教授。二〇〇二年スタンフォード日本センター研究所長。二〇〇六年より慶應義塾大学教授。社団法人融合研究所所長などを兼務。著書に『コンテンツと国家戦略』（角川THINK選書）など多数。